



楓の森アップデート3



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第22号
令和8年3月16日(月)
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓「志高く 道を拓く」

○学校教育目標「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

第71回青少年読書感想文全国コンクール小学校低学年の部入選

1年1組の甲斐達葵君が「第71回青少年読書感想文全国コンクール小学校低学年の部」において、みごと入選に輝きました。おめでとうございます。

以下、甲斐達葵君が「ライオンのくいのネズミ」を読んで書いた読書感想文を紹介します。



ゆうきをだして
こうしかえでのもりしょうがっこう
ーねん かい たつき

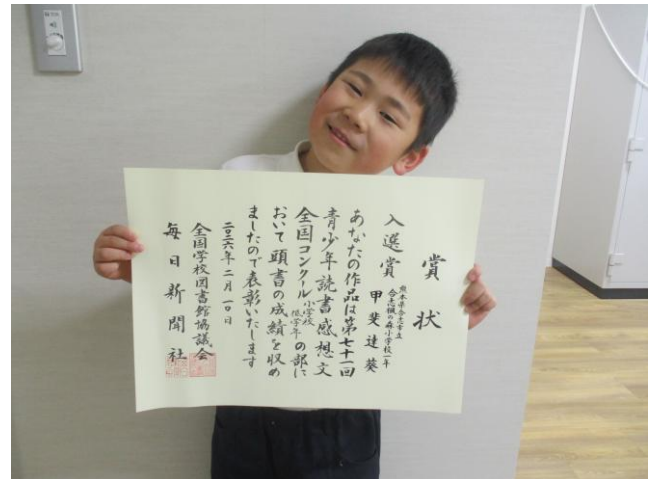
はじめて「ライオンのくいのネズミ」のほんをみたとき、ひょうしのネズミが、ぼくとおなじくらいランドセルをせおっていて、ぼくとにているとおもいました。もっとよくみると、ネズミはげんきがなさそうで、きになってよんでみることにしました。

ライオンのくいにひっこしたネズミは、ことばがわからないし、たべられてしまうかもとおもって、おかあさんがむかえにきたときないてしまいます。そこをよんで、ぼくは、にゅうがくしきのひのこともおもいだしました。ほいくえんでよくあそんでいたともだちとちがうクラスになってショックだったのと、ぜんぶのきょうかしよがはいったランドセルがおもかったのと、せいふくがあつすぎて、かえり

みちになみだがでそうになったのです。でも、いえでおかあさんから「あたらしいともだちができるチャンスかも」といわれて、そうかもしれないとおもえました。つぎのひからすぐにともだちができて、じゅぎょうもおもしろいし、きゅうしょくもおいしいし、がっこうがだいすきになりました。いまでは、しんけんなかおをしたいときでもニコニコしてしまうくらいくらいたのしいです。ネズミも、さいしょはいやでも、がっこうがすきになるといいなとおもいながらよんでいきました。

まいにちがいやだったネズミが、わらわれたリスをかばったところがーばんすきなばめんです。とてもかっこよくてすごいとおもいました。ぼくもおなじようなときには、ネズミのようにたいせつなともだちのためにゆうきをだして、おおきくてにがてなあいてにもたちむかいたいです。そして、ネズミのゆうきのおかげで、ライオンのきもちもわかってなかよくなれそうでした。

さいごのページのえで、ネズミはにんげんであることがわかりました。もし、ネズミにあえたら、がっこうはたのしいかきいてみたいです。そして、ぼくもきみのようにゆうきをだしてともだちをまもるよとつたえたいです。



作品のなかで印象に残った出来事に対して、自分の過去の経験や似たような体験と関連付けて書くことができました。これからたくさんの本を読んで、自分と重ねて考えてみてはいかがでしょうか。

